

脳卒中急性期患者の排便コントロールの実態－効果的な看護の検討－

2022年1月1日から2023年8月31日までに、日本医科大学付属病院 脳卒中専門病棟/外科系高度治療室に、脳卒中急性期（脳梗塞または脳出血）で入院され、内科的治療（点滴や内服による治療）を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「脳卒中急性期患者の排便コントロールの実態－効果的な看護の検討－」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2022年1月1日より2023年8月31日までに日本医科大学付属病院脳卒中集中治療科にて、脳梗塞または脳出血のために内科的治療を受けられた患者さんの排便状況を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：脳卒中急性期患者の排便コントロールの実態－効果的な看護の検討－

研究期間：研究実施許可日～2025年3月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 看護部/看護師 星野みゆき

(2) 研究の意義、目的について

脳卒中は発症してから早期に治療をする事が大切です。脳卒中の治療として、薬物治療とカテーテル治療があります。また、脳血管の血流を保つため、患者さんにはベッド上で安静に過ごす必要があります。そのため、入院前の生活とは一変しベッド上で過ごす時が多くなり、活動量の低下や筋力の低下、水分や食事摂取量の低下を招く恐れがあります。

入院中、排便障害（便秘や下痢）による苦痛を訴える患者さんが多くいます。入院や治療により、活動量の低下や筋力の低下、水分や食事摂取量の低下、治療に使用する薬剤の影響等により排便障害を来しやすく、また排便障害により脳卒中再発の恐れや頭痛を招く可能性があると言われていています。今回、排便を促すための効果的な方法を明らかにし、看護師として何ができるのかを考え、患者さんの苦痛軽減にも繋げていきたいと考えています。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2022年1月1日より2023年8月31日までに日本医科大学付属病院脳卒中専門病棟/外科系高度治療室にて、内科的治療を受けられた患者さんの年齢や性別、病名や安静度、排便状況や食事内容、治療薬などの情報を解析し、脳卒中急性期患者さんの排便を促すために効果的な方法を明らかにし、看護として何ができるのかを検討します。

この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

情報：年齢、性別、病名、安静度、脳卒中や便秘の既往歴の有無、排便状況、食事内容、治療薬、摂取水分量、尿量

試料：なし

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 脳卒中専門病棟/外科系高度治療室 看護師 星野みゆき・西田朱音

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：3604

メールアドレス：miyuki-hoshino@nms.ac.jp/akane-nishida@nms.ac.jp

